

黒岳の森を代表する植生景観

山頂岩角地の岩肌に着生する地衣類群落

天狗岩や高塚の露岩上には、硫黄色のチズゴケや黒褐色のアナイワタケ、黒褐色で光沢のあるタカネゴケなどの地衣類が着生しています。

これらは高山の岩上から極地にかけての寒い気候域に生育する植物で、黒岳山頂部の特異な植生景観をつくっています。



チズゴケ群落（天狗岩）

全域をおおうブナ・シラキの森

ブナとツクシシャクナゲの多いことで知られてきた黒岳の山腹一帯に発達するブナ林は、ブナーコハウチワカエデ・シラキの結びつきが全域的に強く、ブナーシラキ群集と呼ばれています。黒岳の自然林の大部分はこのタイプの植生で占められています。



ブナ林（前岳山腹）

谷に発達するオヒョウ・アサガラの森

黒岳の北側や東側の谷地形に発達するオヒョウ林は、オヒョウ・アサガラ・チドリノキ・ウリノキ・ニシノヤマタイミンガサが結びつく森林でオヒョウ・タイミンガサ・モドキ群集と呼ばれています。黒岳の谷型植生を代表する特有の森林で貴重な植生とされています。



オヒョウ林（かくし水付近）

山麓をとりまく雑木林

黒岳の東側や北側の山麓は民有林で占められ、昔から薪炭用やシイタケ栽培のほだ木として繰り返し入手が入り、萌芽更新による雑木林が帯状に見られます。クヌギ、コナラをはじめリョウブ、シデ類等が多く、山麓に始まる黒岳の新緑を最初にみせてくれます。



クヌギ、コナラ林（白水付近）